

作家ら市民とブースで交流

装飾品など展示即売

下京でフェスタ

「第十八回京都アート・クラフトフェスタ」が四日、京都市下京区の梅小路公園で始まった。プロ、アマの作家が個性豊かなブースで、市民と交流を深めながら自作の装飾品や雑貨を展示、即売している。五日まで。

同フェスタは、南区の市民団体「日本ASPO（アーティスト支援企画協会）」が、作家の発表の場をつくろうと、毎年、春と秋に開いている。今回は、関西などで活動する作家らが計約八十五のブースを設けた。

会場には、手づくりのビーズ、銀のアクセサリや木工品などさまざまなジャンルの作品が並んだ。手編みの靴下やマフラーの売り上げの一部をアフガニスタンの子ども支援に充てる梅村マルテ

インさん(中京区)や、オリジナルキャラクターをプリントしたTシャツを展示する奈良県の女性も。午前十時～午後四時半。入場無料。

を呼んでいた。

制作体験ができたり、

実演をしてくれるブース

もある。午前十時～午後

四時半。入場無料。



落ち着いた雰囲気の中で芸術の秋を楽しめる「京都アート・クラフトフェスタ」(京都市下京区・梅小路公園)